

編集後記 野ばら

またひとつ戦闘が起きました。インドとパキスタンです。
双方が戦闘拡大も辞さない構えで、不安が募ります。

ウクライナとロシアとの戦争も依然として出口が見えません。さらには、イスラエルとパレスチナの戦闘も激しくなり、ガザ地区では約50万人が飢餓状態に陥っているようです。空っぽの鍋を片手に大声を出して配給をお願いするガザの少年の映像をニュースで見ましたが、ただただ心が痛みます。



アヴニール労務事務所 所長 柿野元博

<http://www.avenir-sr.jp>

E-Mail avenir4you@gmail.com



「野ばら」(小川未明(1882年-1961年)著)という童話があります。

ご存じの方も多いとは思いますが、簡単にあらすじを紹介させていただきます。

大きな国の老兵と小さな国の青年兵が、一株の「野ばら」がしげる国境の石碑を守っていました。そのうち、年齢の差や立場を超えて二人は仲よくなりました。老兵はせがれや孫が住む南の方を恋しがり帰りたいと言いましたが、青年兵から「あなたがいなくなったら別の人が来る。どうかいてください。」とお願いされ、老兵は青年兵との友情を優先します。

あるとき、二つの国は戦争を始めてしまいます。老兵は「私はこれでも少佐だから、私を殺してあなたは出世なさい」と青年兵に言いますが、青年兵は老兵にあきれた顔をして断り、北の戦場へと旅立ちました。老兵は青年兵を案じながら国境で過ごしましたが、戦争は大きな国が勝利し、小さな国の兵隊が皆殺しにされて終結します。しばらくすると国境にあった「野ばら」は枯れてしまい、老兵も南へと去っていきます。



敵味方に分かれても友情を貫いた、あたたかくも切ない話に、戦争という不幸と平和について考えさせられます。若い青年兵に自分の首を差し出そうとした老兵が、あの子どもたちのヒーローの姿と重なりました。泣いている子どもに自分の顔を食べさせる「アンパンマン」です。

以前、「**おいしい顔ってどんな顔**」というキャチコピーの雪印のCMがありました。

「おいしい顔ってどんな顔」というフレーズが繰り返される中、幼い子がパンを嬉しそうにほおぼる食卓の風景。最後は商品がアップになって「おいしい顔のネオソフト」で終わる。僕が好きだったCMです。僕にも1歳の孫がいますが、一生懸命食べ物をほおぼる小さい子どもの様子は周りを笑顔にさせます。心の安寧とはこういうことかと、「平和」を感じる瞬間です。

「野ばら」の老兵がせがれや孫を恋しがったのも、やなせたかしが「アンパンマン」を描く衝動にかられたのも、根底には子どもたちの幸せな笑顔への思いがあったからかもしれません。



その笑顔が、僕の「勇気りんりん」の素なのだよ

さて、労働力人口が減少していく一方で企業内でも高齢化が進み、孫を抱える世代の従業員が増加しています。そんな中、福利厚生の制度として「**孫休暇**」を設ける企業や地方自治体が増えています。

祖父母である従業員が孫の世話や看病のために取得できる休暇で、子育て世代を支援するため子育てを社会全体で行うことの機運を醸成しようと、導入が進んでいるようです。(@o@)

マイナビが発表した「2025年卒の学生就職モニター調査」の企業選びのポイントのアンケートでは、2位の「給与や賞与」を抑えて**1位**だったのは、「**福利厚生**」でした。

初任給の金額ばかり報道されていますが、福利厚生への会社の姿勢は採用にも大きく影響するのです。(^_-)-☆
人手不足の中で休みが増えると、また人のやりくりが大変になることは重々承知していますが、当社は「孫休暇」という制度で社会全体の子育てを支援する会社なのだと示すとともに、ジジババ従業員(失礼!)のちょっとした心の安寧を図ることを考えてみるのも「アリ」なのではないでしょうか。(^o^)/

蛇足ですが、他にも僕が好きだったCMがあります。(^ ^)

それは現パナソニックの「**綺麗なお姉さんは好きですか?**」ってCM。

テレビの前で「はい」と返事したら、当時幼い息子もつられて返事していました。

平和な国に生まれた僕は幸せです。(^_^)v



はい!

おい!

アヴニール労務事務所
未来は変えられる! **avenir**